

## 第4回国際樹木根会議 (4th International Symposium on Dynamics of Physiological Processes in Roots of Woody Plants) のご紹介

野口享太郎 (森林総合研究所立地環境研究領域)

平野恭弘 (森林総合研究所関西支所)

来年2007年の9月16日(日)から19日(水)まで4日間、ウェールズ大学(イギリス)において「第4回国際樹木根会議 (<http://www.woodyroots.org.uk/>)」が開催されます。

このシンポジウムはタイトルの通り「樹木根」に焦点を当てたもので、1995年以来4年に一度開催されてきました。4回目となる今回は以下の4点を主な目的として掲げています。

- ① 樹木根系の生理生態学的研究に関する最新の知見について発表および情報交換。
- ② 樹木根の生理プロセスおよび植物体全体の機能に対する環境変化の影響評価。
- ③ 樹木生理、生態、菌根菌、根圏微生物など、樹木根に関わる様々な分野の研究者による知見の共有と、樹木根系の総合的な役割の解明。
- ④ 今後、樹木根研究において重要となる課題についての提案。

これらの目的に基づき、今回のシンポジウムでは次の4つのセッションを設け、口頭およびポスター発表が行われる予定です。

- ① 根による養分の吸収と利用 (Nutrient uptake and utilization)
- ② 同化産物の根への分配 (Assimilate allocation and partitioning in roots)
- ③ 根の成長とターンオーバー (Root development and turnover)
- ④ 根による水の獲得機構 (Water acquisition)

さらに、研究発表に先がけ下記6課題について、初日の16日(日)に半日程度のワークショップが開催される予定です。具体的な内容については未定ですが、各課題について第一線で活躍する研究者が講師を務める予定です。

- ① 分子生物学的手法の利用 (座学とディスカッション)
- ② 根の形成層活動 (実験室での検討会)
- ③ 根の水分通導特性 (実験室での検討会)
- ④ フィールドにおける機能生態学 (野外での検討会)
- ⑤ 根のターンオーバーとミニライゾトロン利用 (野外での検討会)
- ⑥ 樹体全体の機能における粗根と細根の役割 (野外での検討会)

このように、今回のシンポジウムでは会議場での研究発表だけでなく、野外や実験室における研究活動の現場について議論できる場も用意されており、通常の国際会議よりもさらに充実したものになると期待されます。また、18日(火)の午後には「ディスカッション」の時間が設定されており、形式にとらわれずに各国研究者との国際交流を深める良い機会になるものと思われます。今回のシンポジウムでは、主にヨーロッパの樹木根研究会 (COST Action E38; 根の研究 14 巻 2 号 66 頁参照) の研究者が運営にあたりますが、研究発表を通じた研究者間交流とともにディスカッションを重視する彼らの姿勢が、こういったスケジュールの構成に現れているようです。

今後のスケジュールとして、①事前登録のめ切が2007年1月15日、②要旨提出のめ切が2007年5月1日となっています。4年に一度、世界各地の樹木根研究者と交流する非常に良い機会です。樹木根研究に関心をお持ちの方は、ぜひご参加ください。詳細については、随時 Website (<http://www.woodyroots.org.uk/>) に更新される予定ですのでご覧いただくか、野口享太郎 (kyotaro@affrc.go.jp) または平野恭弘 (yhirano@affrc.go.jp) までお問い合わせください。

根研究会事務局より：若手会員海外渡航支援制度で、この会議のための特別枠を設けました。詳細は、本号に掲載の「カレンダー」末尾にある案内をご覧ください。